

2011年の主要水産物の需要と供給

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量								価 格						
	生 産	産 地	食 用 加 工	輸 入	輸 出	東 京	岳 弁 びん詰	在 庫	生産額 (億円)	産 地	輸 入 (億円)	輸 出 (億円)	東 京	魚介類消費 支出1世帯	為替 レ ー ト
22	5,338	1,772	1,816	2,722	566	569	114	906		153	13,704	1,953	815	82,278	88
23		1,682		2,693	425	528		866		153	14,516	1,740	857	78,744	81
%	0	95	0	99	75	93	0	96		100	106	89	105	96	92

数 量

本年の国内生産量は東日本大震災の影響もあって前年をやや下回ったものと推定される。

全体的な特徴としては徐々に漁獲が増えてきているマイワシと日本海で好漁となったウルメイワシの生産が伸びた他は、目立った増減は少なかった。

大きく増加した魚種は、上記マイワシ、ウルメや日本海で好調だった生鮮のクロマグロ、オホソクで好漁が目立ったスルメイカ等であり、大きく減少した魚種は震災の影響を受けたタコ類、生鮮カジキ類、カタクチイワシ、サケ・マス類、ホッケ、冷凍アカイカ等であった。

輸入は、269万トンと為替円高であったが、前年をやや下回った。

本年は、目立って多くなったのは引続きすり身や、養殖系が好調であったサケ・マス類、そして近年増加基調にあるフィレー等で、横ばい～やや減少基調の魚類が多かった。

近年増加基調が続いていた輸出は、本年は42.5万トンで為替円高や原発事故による各国の輸入規制もあって前年（56.6万トン）を下回り、極めて苦戦を強いられた。

目立って多くなったのはビン長、メバチや国内生産が好調だったイワシ、イカ類等であり、東アジア地区への輸出が目立った。今まで多かった中国、ロシア、エジプト(アラブの春)の減少が目立った。

東京の入荷量は、52.8万トンで引続き前年(56.9万トン)を引続きやや下回った。

在庫量は、月平均87万トンで前年(91万トン)を下回った。(三陸の冷凍冷蔵庫の被災による在庫喪失が影響している)

価 格 ・ 金 額

本年の産地価格の特徴は、東日本大震災により節電や自粛の影響等もあって生産の減少の割には価格の際立った上昇はみられなかった。本年は冷凍マグロ類が堅調であった他、生産が落ちたカツオや冷凍アカイカ、冷凍スルメイカ、タコ類の上昇が目立った。

東京消費地価格は、857円で入荷減少を反映し引続き前年(815円)をやや上回った。

輸入金額は、1兆4516億円(前年：1兆3704億円)で前年を812億円上回った。

輸出金額は、1740億円で引続き前年(1953億円)を213億円下回った。

円 レ ー ト

23年の円レート（対USドル）は、年平均81円で前年（88円）より7円の円高となった。

円レートは、85年の9月のプラザ合意以降一時的な円安がみられたものの急速な円高・ドル安傾向が10年間続いた。

しかし、95年秋から円安に転じ、97年以降に証券会社、銀行の倒産が続き金融システム不安等も重なり一層円安が進行し、98年も一時140円台の安値を記録するなど秋口まで円安が進行した。その後、一時年末にかけて円高(113円)へと反騰したが、99年は夏場までやや円安(114~121円)で推移したが、下半期には急激に円高に反騰し、12月は103円まで急騰した。2000年は年末の円高の103円からスタートで、一時的な円高はあったが、基本的には円安傾向で推移し、年末には111円まで下げた。01年は長引く不況や銀行、ゼネコン、流通分野での倒産、再編もあり、年を跨いで急激な円安が進行し、9、10月に119円とやや円高に戻したものの、12月には124円と円安に急落した。02年には131円の円安から始まってその後円高に転じ、8月に118円まで上昇したが、一向に景況感の低迷もあり12月には122円まで下げた。その結果、為替は10年前の水準まで戻した。03年は年初の119円から始まり9月までは2円前後の幅での小さな動きであったが、10月に111円と急騰し、11、12月と小幅円高で推移し108円まで上げた。04年は年初106円の円高で始まり、5月に112円の円安に振れたが、その後は円高に転じ11月以降は104円、103円まで上げた。05年は年初の103円から下半期には円安に変わり7月には110円まで下げ、その後一貫して円安で推移し、12月には119円まで下げ、年末には若干円高となり117円台で推移した。06年、年初は引続き円高の116円でその後も117円とやや円安で推移していたが、5月に112円と円高に振れたが、それ以降は11月の119円までじり安推移し、11、12月と若干の円高に戻した。07年は年末以上に円安の121円に始まり、6月には123円まで円安が進行した。しかし米国のサブプライムローン等の影響もあって、7月以降は円高に振れ、11月には110円まで進み、12月には112円にやや円安となったが、基本的には下半期は円高基調になった。

08年は、年初から円高となり、3月100円まで円高が進んだその後は8月まで円安に振れたが、9月のリーマンショック以降の世界金融危機の拮据の中で円は急騰し、12月には91円まで上げた。2009年は90円の円高から始まり、4月には99円の円安となり、その後は円高となり、11月には90円を割り、12月には一時84円台を記録するなど、円高が進行した。

10年は当初は91円の円安で始まり、6月まで90-93円の幅で進行したが、下半期に入って87円と90円を割り、その後も円高は10月の82円まで進み、12月の83円とその後若干戻したものの、円高が際立った。11年は年初83円から始まり6月には81円台まで上昇した。下半期に入るとギリシャの金融危機からEU全体の金融不安が広がり、相対的に信用がある円が買われ、9、10月は77円台まで円高が一層進んだ。その後78円まで戻したが、下半期の円高は際立っていた。

(参考：84年237円→85年240円→86年170円→87年146円→88年128円→89年137円→90年145円→91年135円→92年127円→93年112円→94年102円→95年94円→96年108円→97年121円→98年131円→99年114円→2000年107円→2001年121円→2002年126円→2003年116円→2004年108円→2005年110円→2006年116円→2007年118円→2008年103円→2009年94円→2010年88円→2011年81円)

石油価格（1kl当たり）

23年のA重油価格は、年初は62,500円の高値で始まり、中旬には63,500円に上昇し、2月上旬64,500円、下旬65,500円、3月上旬67,500円、中旬の71,500円が4月上旬まで続いた。しかし4月中旬には74,000円と再度上昇した。5月に入ると73,000円と反落し、中旬70,000円、下旬69,000円まで下げ、この価格が6月中旬まで続いた。下旬に入ると67,000円、7月上旬65,000円まで下げたが、その後中旬再度67,000円と上げ、下旬68,500円まで上げた。8月上旬再度65,000円、中旬64,000円と下げ11月上旬まで続いた。中旬に入って65,500円と再度上げ、12月上旬66,500円の価格が下旬まで続いた。

参考：近年の最高値74,000円/k1（1982年11月）75,000円/k1（2007年12月）、115,000円（2008年7月）